混和会とは、共に許し合いながら、他の人格を尊重し、共に生きる和の構築を目指す集いです。

ほとけの混和会だより

平成二十八年九月
東光院
仏の混和会
第122号

諸法実相（しょほうじっそう）

そのまま地蔵

横尾忠作

　このお地蔵さんは東光院の本堂前にお祭りされて居る地蔵尊で「そのまま地蔵」と命名されております。

「そのまま」とは、様々な出来事や、自己の内面的な迷いに於いて「あるがままに」「そのままに」受け止めてください。と言うことです。

　これは仏教の「諸法実相」と言う教えを、この地蔵尊の作者は親しみやすく、このような形で表現して下さったのです。

　この仏陀の教え「諸法実相」は「一念三千の冥利」である。などと教科書ではちょっと難しく説かれていますが、簡単に解釈すると大自然の摂理や己の心を「あるがままに」「そのままに」受け止めて、心に苦しみを抱く事無くゆったりと生きて行って下さい。と言う事なのです。

　この「諸法実相」と言う教えは、己の外で起こる現象、たとえば、太陽の光や風雨の恵み、そして春夏秋冬の気候の変化と言った自然の営みに感謝の念を抱き、更に言えば自然災害や不慮の事故等に於いても、否定的に受け止めるのでは無く肯定的に導きとして受け止めると言う事なのです。しかし迷いや災難を肯定的に受け止めるにはそれなりの時間が必要かと思います。

　そして内なる自己に対しても、偽らず、飾らず、虚勢を張る事無く、他と比べる事無く「そのままの自己」「あるがままの自己」真の自己を見いだして下さい。と言う事なのです。

　よってこの地蔵尊は、自己の自覚の元に大いなる仏性が会得できますように、そして様々な迷いに翻弄される事無く、穏やかで安らかな生活が営めるようにと願いを込めてお祭りされております。

　どうか、みんな幸せでありますように。

『南無阿弥陀仏』

『南無そのまま地蔵尊』合掌

ねーねー、お坊さん
あるがままに、そのままに生きるって
具体的にどういうことですか？

そうじゃなー
お釈迦様はね、
私達の人生を
生、老、病、死、愛別離苦
怨憎会苦、求不得苦、五蘊盛苦、
合わせて四苦八苦と説いて下さったのじゃが、この苦しみを苦と受け止めずに「あるがままに」「そのままに」受け止めなさいと言う事なんじゃよ。

　ようするに、生まれる事や老い、病も死も、そして愛する人との別れや、憎しみや怒り、限りない欲望、体も心も受け止め方次第で、苦しみの要因となりますよ。物事を正しく観なさいと言う事なんじゃが、この教えはインドの「ドゥッカ」と言う言葉を漢字に当てはめて「苦しみ」と訳されたのじゃ、本来の意味は「思うがままには成らない」と言う事だったのじゃよ。

　私達の人生は思うがままにならない、思うがままに成らない事を、己の思うようにしようと「我」を振りかざせは、そこから苦しみが発生しますよ。思うがままに成らない事は、思うがままにしないで、結果を求めず善因の功徳を巡らすだけ、後は全て「あるがままに」「そのままに」

御仏の導きと受け止めなさいと言う事なんじゃ。

　更に内面的な心の苦しみも同じように受け止められると心も晴れ晴れとするのじゃが、これがなかなか難しい事なんじゃ。

　実はね、私は幼少の頃より、会話を楽しみながら人と喜びを共有することが苦手で、自己の世界に籠もり孤立した生活が多かったのじゃ、だから自分が好きになれず何時も人をうらやんでいたのじゃよ。そんなある日**「みんなちがってみんな良い」**と言う金子みすゞさんの詩を知ったのじゃ。

　この詩は相手に対する受け止め方と己に対しての受け止め方、両方あると思うのじゃが、あえて己の都合に合わせ解釈すると「己を他と比べる必要は無い、私は私で良い、あるがままの私、そのままの私で良い」などと身勝手な解釈ながらも、その当時は、この詩は大きな支えとなったのじゃよ。

　その後この詩を「私は私で良い」と解釈した時、このようなわがままな自己を受け入れてくれる人々が居てくれて初めて成り立ち生きる言葉だった事に気付いたのじゃ。私は許され、生かされて居たのじゃよ。

　先ずは心から「感謝と懺悔」の念を抱き、「あるがままに」「そのままに」生かさせて頂く事かと思うのじゃよ。

　皆様に於かれましても大いなる道が開かれますようお祈り申し上げます。

合掌

亮観拝

日本の仏様

No. 12

　日本仏教に登場する仏様を毎号少しずつご紹介 。今回は菩薩部の地蔵菩薩を紹介します。

●菩薩部　地蔵菩薩

　昔話「笠地蔵」や、道ばたでも見かけ(お地蔵さん)の名で親しまれている地蔵菩薩。地蔵菩薩はお釈迦様がこの世を去ってから次の仏陀(弥勒菩薩)が現れるまでの五十六億七千万年もの間、仏陀に変わって人々を救済するよう、お釈迦様が頼んだのがこの地蔵菩薩です。

「地蔵」とは、大地が全ての命を育む力を蔵するように、人々を無限の慈悲心で包み込み救う仏という所から名付けられたとされています。

　地蔵菩薩は地獄の閻魔大王の化身でもあるため、一度でもお参りをし、手を合わせたのならば地蔵菩薩が身替わりとなって地獄のような苦しみから救ってくれると考えられ、多くの人の信仰を集めました。そのため、地蔵菩薩が伝来した当時に書かれた「今昔物語」には何度も登場し、身代わり地蔵やとげ抜き地蔵、歯痛地蔵に縛られ地蔵子安地蔵など多くの地蔵が作られるようになりました。

東光院
交通安全を見守る
地蔵菩薩

　地蔵菩薩というと先にも取り上げた「笠地蔵」でも登場する六地蔵が有名かと思います。この六地蔵は仏教で考えられる六つの迷いの世界(地獄界・餓鬼界・畜生界・修羅界・人間界・天界)に一人ずつ地蔵菩薩がいると考えられたためであり、この六地蔵それぞれを供養するため、お金を一文ずつ、計六文をお供えする六文銭という風習が生まれました。それが死後、三途の川を渡る際の渡し賃となったという説もあります。

　そんな地蔵菩薩を見ると右手には錫杖、左手にはタマネギのような形をした宝珠を持っています。右手の錫杖は杖の先に輪を付けて音が鳴るようにした物で、元々はインドの修行僧が托鉢にやってきた事を知らせるための物で、その音から邪気を払いながら多くの人々の元に赴くため錫杖を手にしています。そして、左手に持つ宝珠は正式には如意宝珠といい、仏教において仏の教えの象徴とされています。この宝珠からは願った物を取り出しあらゆる願いを叶え、病気も治すことが出来るとされ、どんな悩みにも対処できるよう手にしています。

　何でも出てきて願いを叶えてくれるなんてまるでドラえもんのポケットのようですね。

亮澄拝

お盆も過ぎて・

　九月に入り、幾分過ごしやすい季節になりつつある今日この頃、皆様におかれましてはいかがお過ごしでしょうか。

　今年は昨年同様、多くのお宅へお盆のお参りに伺わせて頂きました。私自身、いろいろな方とお会いする機会を楽しみにしている面もありますが、お忙しい中に時間を割いて迎えてくださる皆様方に対しましては、ご負担をかけることもあったことかと思います。改めてこの場をお借りしてお礼申し上げます。

台風と施餓鬼法要

　さて、去る八月二二日 東光院施餓鬼会がございました。当日は台風九号の関東上陸と重なり、法会開始時刻の一四時は暴風域のピークであったことから、同日十一時半の段階で中止を決定。院内三人のみで法要を厳修することに致しました。本来であれば部内七ヶ寺の住職に御参集頂き、施餓鬼法要が営まれ、東光院としましても大きな法要となる予定でありました。

　しかし安全面等の配慮から致し方ないこととはいえ、誠に残念な結果となってしまいました。

　数年前、大雪の為に節分会を中止したことがございましたが、行事に向けて準備をすすめ、すべてを手配用意した後での中止の判断は、どこか虚しいといいますか、心苦しい思いが致します。しかし、こうした回があるからこそ、当たり前のように開催できることが、いかに幸いなことであるのかを気づかせてくれるのかもしれません。

亮敬拝

開始五分前、境内中央の梅の木が倒れてしまい、お寺前の県道も倒木のため一時通行困難な状態となりました。